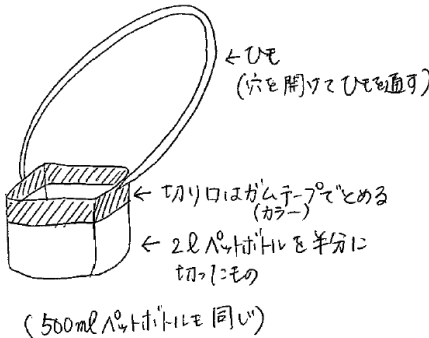


はっぱでじゃんけん

■プログラムの概要

ねらい	- 身近な自然に目を向けさせる。 - 葉っぱには様々な形・大きさ・色があることを知る。		
キーワード	身近な自然		
対象	幼児～小学2年		
時間	40～50分	実施場所	公園・園庭（室内）
使用するもの	- 手作り虫眼鏡、もしくは手作り双眼鏡など - 紙やトレー - 一人ひとり葉っぱを入れられるもの。 （ビニール袋やペットボトルなどで作ったポシェットなど） 		
全体の流れ	- 事前に虫眼鏡作り（双眼鏡作り）をする。 - 導入 - 葉っぱ探し - じゃんけんのルール説明 - グループに分かれてじゃんけんゲーム - まとめ ※1と2は年齢や子どもの状態によって前後してもよい。 ※子どもの年齢によって、1は指導者が作っておくことも可。 プログラム「むしむしめがねで…」を行ったことがあれば、その虫眼鏡を使ってもよい。		

■進め方

時間	学習内容	指導上の留意点
10分	＜虫眼鏡づくり＞ ① 厚紙で作る。 厚紙を虫眼鏡の形に切り、回りに好きな絵を描いたりシールを貼ったりする。 ② ヨーグルトの空き容器で作る。 あらかじめ底を抜いておいたヨーグルトカップを使い、眼鏡を作る。 ＜双眼鏡づくり＞ トイレットペーパーの芯二つをガムテープやホチキスなどで止める。	- 厚紙を切る作業は年齢・子どもの状況により、大人が行う。 - ひもなどを付けて首から下げられるようにしてもよい。 - 年齢や子どもの集中力を考えて、虫眼鏡（双眼鏡）作りを前日または当日やるか判断する。 
5～10分	＜導入＞ 園庭（校庭）や公園など身近な場所で見つけた様々な形や色・大きさをした葉っぱなどを紹介する。	葉っぱがどんな形をしているか？何色か？と質問したり、色々な種類の葉っぱを用意し、形・大きさの違いを見比べることで、子どもの“探したい”という興味を引き出す。
10分	＜葉っぱ探し＞ 園庭や公園に出かけて、落ちている葉っぱや雑草の葉っぱなどを手作り虫眼鏡（双眼鏡）で探し、集める。 色々な形・触感の葉っぱに気づいたり、どの木から落ちた葉っぱなのか興味をもつ。 	- 色々な形・色・大きさのものに目を向けて集められるようにアドバイスする。 - 探すときに、手作り虫眼鏡（双眼鏡）を使うと、よく見えることも伝える。 - 探す前に、目安として1人10枚などと設定するが、子どもの興味や時間に合わせて臨機応変に枚数を増やしてもよい。 - どの木から落ちた葉っぱなのか、何という名前の木なのか、子どもの疑問や気づきに答えたり一緒に考える。
5分	＜はっぱじゃんけんの説明＞ 指導者同士または子ども一人と指導者で実際にはっぱじゃんけんをやりながら、見ている子どもたちに説明する。 【やり方】 ① 例)「沢山ギザギザしている葉っぱ」や「一番大きい葉っぱ」など1つ条件を出す。 ② 自分が拾ってきた葉っぱの中から、条件に近いものを選ぶ。	- 条件を出すときは、視覚的なものと触覚的なものを上手く使い分けて子ども達に分かりやすいよう何パターンかやってみせる。 ※視覚的なもの…ギザギザ・一番大きい・小さい・ハート・丸・三角・濃い緑・強そうに見えるなど。

時間	学習内容	指導上の留意点
	③ 「はっぱじゃんけん、はっぱっぱ」の掛け声で選んだ葉っぱを出す。 ④ より条件に近い葉っぱが勝ち。 例) 沢山ギザギザしている方が勝ち。 一番大きい葉っぱが勝ち。	※触覚的なもの…ツルツル・ザラザラ・硬い・柔らかいなど。 ※「きれい」は感じ方が個々で違うので、赤・緑・黄色など具体的に言う。 ・見ている子どもたちに、どちらの方がギザギザしているかな？などどちらが勝ちか、あいこなのか聞いてみる。 ・見せ方は、指導者 vs 指導者、指導者 vs 子ども全員、指導者 vs 子ども1人などその場に応じて選択する。
10～15分	<はっぱじゃんけんをする> ・指導者が条件を出す。上記のやり方で行なう。 ・最初は二人組で行う。慣れてきたら人数を増やしてみたり、メンバーを換えてやってみてもよい。 ・途中、葉っぱ補充のため、再度、葉っぱ探しを行ってもよい。	・最初は分かりやすい条件を出すようにする。勝ち負けでもめているところがあれば援助する。あいこがあることも知らせる。 ・自分が集めたものが分かるように、一人ずつ紙やトレー（B4～A3）の上に並べられるようにする。
5分	<まとめ> ・子どもに感想を聞く。 ・子ども達が拾った葉っぱのなかで、面白い形の葉っぱなどを紹介する。 ・いろいろな形・色・大きさ・感触の違いがあることの子どもの気づきに共感する。 ・「次は、花・木の実・枝など他の自然物でもやってみよう」などと声をかけ、発展させていく。	・時間があれば、一人ずつ前に出て見せ合ったり、面白い形の葉っぱをどこで見つけたのかなど発表する。ただし、集中力がもたない場合は、大人がまとめの話をして終了にしてもよい。 ・何の葉っぱなのかな？調べてみようね。などと声を掛け、調べたい知りたいという気持ちにつなげる。

■使用するもの

物 品 名	数 量	備 考
厚紙またはヨーグルトカップ		虫眼鏡・双眼鏡づくり 数量は子どもの人数に応じて判断 切る作業は年齢・子どもによって指導者が行う。
トイレットペーパーの芯	一人2つ	
はさみ		
ビニール袋やポシェットなど		集めた葉っぱを入れる。
葉っぱ	1人10枚位	様子を見て、増やしてもよい。
紙やトレー	人数分	集めた葉っぱを広げる。

■実施にあたって留意する点

- 基本は、葉っぱを集めた場所でゲームを行なう方が盛り上がるが、近場の公園や園庭などで葉っぱを集めて、じゃんけんゲームは室内に戻ってから行なう方が子どもたちが集中して話を聞きやすいこともあるので、そのクラスの子どもの様子に合わせて、指導者は、じゃんけんゲームをその場でやるのか室内に戻ってからやるのか判断する。
- 手作り虫眼鏡（双眼鏡）は、他のプログラムで作ったものを代用してもよい。また、プログラム活動当日に作ることが難しい場合は、事前に子どもたちと作っておく。
- はっぱじゃんけんの別バージョンもあるので、別バージョンを用いることも可能。集めた葉っぱの中から、グー・チョキ・パーに見えるものをそれぞれ選び、グー・チョキ・パーに見立てた葉っぱでじゃんけんをする。
- 子どもたちが見つけてきたものは十分に褒めてあげる。また子ども達に対しても、他の人が探してきたものを否定しないように話しておく。
- 大人も子どもたちと一緒に楽しみ葉っぱを集める。集めたものは見本兼予備にする。予備は、なくしてしまった子や数枚しか集めなかった子などに必要があればあげられるようにする。